

## マルクス主義者は〔切実な要求〕をプロレタリアートの要求としてプロレタリアートが利用するためにマルクス主義者の仕方で定式化せよ

マルクス主義者は、ナロードニキ諸君がやってきたし、また現にやっているのとは別な仕方で、これらの問題を提起しなければならない。ナロードニキのばあいには、問題は「現代の科学、現代の道德観念」の見地から提起されている。このような改革が実現されえないということには、生産関係そのものに根ざした深い理由はいささかもないのであって、ただ、感情が粗野であること、すなわち〔理性の光〕の弱いこと、等々だけが妨げになっているかのように、ロシアは、*tabula rasa*〔なにも書いていない書版〕であって、そのうえに正しい道を正しくえがきさえすればよいかのように、事態がえがきだされている。……ところが、マルクス主義者のばあいのこれらの問題の提起は、まったく別様でなければならない。社会現象の根源を社会関係のうちに探しもとめ、それらの根源を一定の階級の利益に還元しなければならないマルクス主義者は、同じ *desiderate*〔切実な要求〕を、ある他の社会的要素や階級の抵抗に遭遇するある社会的分子の「願望」として、定式化しなければならない。……もし同じ問題を階級敵対の理論に対応させて提起するならば《もちろん、そうするためには、ロシアの歴史と現実の「諸事実の再検討」が必要である》、それらの問題にたいする答は、これこれの階級の死活的に重要な利益を定式化することになるであろう。これらの答は、利害関係をもつこれらの階級から、しかも、もっぱらこれらの階級だけから、実地に利用される運命をもつであろう。

第一巻 ナロードニキ主義の経済学的内容 P544~545

### コメント

マルクス主義者は切実な要求の「根源を社会関係のうちに探しもとめ、それらの根源を一定の階級の利益に還元しなければならない」、諸事実をこのような観点から再検討して問題を提起しなければならない。そうすればプロレタリアートに「実地に利用される運命をもつであろう。」と、いうことを認識の原点にしなければならない。